



野生のトラの減少に反比例するように中国や南アジアの繁殖施設で飼われているトラの数が増えています。中国では野生のトラは7~20頭ほどしか生息していませんが、繁殖施設では5,000頭~6,000頭ものトラが虎骨の漢方薬利用のために飼われています。中国だけでなく、野生下では絶滅寸前のラオスとベトナムにはそれぞれ380頭、199頭のトラが繁殖施設で飼育されています。タイでは野生のトラは220頭余り、施設では1,450~2,500頭ものトラが飼育されています。科学的根拠もないのに強さの象徴ゆえにトラを自分の体の中に取り入れたいと考える人たちは、今も数多くいるようです。

今年1月末にもロシアと中国の国境で最大級の野生動物身体部分の押収事件がありました。その中にはアムールトラ5頭の毛皮、骨、尾、ペニスも含まれており、その他クマの掌、大量の熊の胆、太ったカエルなど全部で1トン以上が2台の車で運ばれるところでした。総額は1億2,000万円以上にのぼるものでしたが、これらの多くは中国の春節を祝う食卓に上ることになっていたはずだったようです。

現在、トラの生息地保全にそれなりの成果をあげている国はロシアとインドなど一部の生息国です。かつてはトラの生息国は14か国だったのに、北朝鮮、カンボジアは絶滅、中国、ラオス、ベトナムは絶滅宣言を待つばかり。そのほかの国でも開発の脅威にさらされています。カンボジアはインドからトラを再導入しようと考えているようですが、なんといっても生息地の環境を良くして自然に繁殖できるようにしなければ連れてこられたインドのトラもいたずらに犠牲になってしまいます。

野生のトラを守るには、森林を守らねばならず、森を守ることは私たち人間の暮らしを守ることに繋がります。JTEFの新たな活動地でも、森を守り、トラを守り、人間とトラとの共存を実現していきたいと思えます。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

目次:

巻頭言 … 1

トラの保全をめぐる動き2016 … 2

2016年度 事業の概要と収支報告 … 3

2016年度 事業報告(生息地支援) … 4・5

2016年度 事業報告(普及啓発イベント) … 6

2017年 事業計画と予算 … 7

事務局日誌 / イベント・カレンダー / JTEFの活動をご支援ください! … 8

トラ保護基金 新たな保護区で新たなステップへ！

● ナグジラ・ナワゴン・トラ保護区JTEF支援の成果

2000年からJTEFトラ保護基金は中央インド、マハラシュトラ州のナグジラ・ナワゴン・トラ保護区と周辺の森に暮らす人々を支援してきました。コリドーとしてトラが行き来している森にある村を私たちが初めて訪れたとき、村の人たちは初めて見る日本人を遠巻きに、怪訝そうに見ていました。その後、森で伐る燃料用の木を減らす目的で、燃焼効率のよい煙突付の改良型コンロを配布していくうちに、煙が室内にこもらないため健康被害も少なくなり、毎日10kgもの薪を運ぶ仕事も減り、時間的にも余裕が出て、目に見えて人々の生活は楽になり、それにつれて私たちがにこやかに笑顔で出迎えてくれるようになりました。保護区も2倍に広がり、周辺の森もバッファー・ゾーンとして保護されるようになったため、数年間トラの姿が見られなかった地域でもトラの目撃がされるようになりました。人々は森に過度に依存せずに村に植林した実や花から製品を作り販売し、トラと人々との共存が現実のものとなりました。インド政府もこの地域をトラ保全の成功例として取り上げるようになり、世界中の大きな保護団体からの寄付も集まるようになったことは、トラ保護基金通信などでお伝えした通りです。

そこでJTEFは、同じマハラシュトラ州でナグジラ・ナワゴン・トラ保護区の南側に位置する、まだ保全が全く行き届いていないティペシュワール野生生物保護区のトラ保全に新たに着手することにしました。



Google earth image of Tipeswar WLS

● 次のJTEF支援地、ティペシュワールへ！

ティペシュワール野生生物保護区は広さ148.632平方キロ（大体川崎市と同面積）の小ささですが保護区内外で各5-10頭のトラが生息すると推定されています。野生生物保護区に指定されてはいますが、ここでは違法伐採や家畜の放牧、密猟、山火事、日照り、人間との軋轢問題などが頻繁に起きており、生息地とそこにくらす野生生物に大きな影響を与えています。人間側もこの15か月で人が7人も亡くなり、44頭もの家畜がトラに殺されている事実があります。最近、ティペシュワール野生生物保護区は観光地図に載って一般の人の目にふれるようになりました。また、保護区といっても野生生物保護区は制度上ステータスが低いため、より良い保全活動を行うためにはここをトラ保護区に格上げした方がいいという森林官や専門家からの意見も多くなってきています。このような事情からWTIとJTEFは機が熟したと判断し、比較的、短期的に最重要な介入をすることでその周辺の保護レベルの強化を昨年決定しました。現在重要な生息地情報を集め、効果的な作業計画を策定するために、この地域の関係当事者、村人たち、地方行政、森林局の職員等との調整を始めています。

野生生物の保全は保護区内外の地域コミュニティが主体的、積極的に参加しない限り成功はありません。地域住民が彼らを取り巻く環境の保全を自らの関心事とし、トラ等の野生動物の共存を前提に森林の利用を持続可能なものとする必要があります。



[事業の概要]

▶ 生息地支援

[中央インド・トラ保全プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費(予算額):
2,200,283円(3,100,000円)

現地パートナー:インド野生動物トラスト(WTI)

【目的】

ヴィダルバ地域(マハラシュトラ州)内のトラの生息地確保・密猟防止

【概要】

・「**トラの森と共存する暮らし向上プロジェクト**」

コリドー内やその周縁部に暮らし、コリドー内の森に依存する地域住民が、森林内の過剰な放牧や伐採によって森林に与える影響を小さくするため、コミュニティーの生活改善を実施する。

・**その他の活動**

- 広大な森林地帯を帯のようにつないでいる森(コリドー)で、トラをはじめとする野生動物とその生息地の状況を調査する。
- 森林コリドー伐採、保護区管理への悪影響を理由とする国道拡幅工事の差止めを求める裁判を実施する。

[マレートラ密猟防止プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費(予算額):
0円(100,000円)

今回は、現地からの要請がなかったため、支援を見送りました。

▶ 生息地外における野生動物保全に関する教育・普及事業

[うへのトラ大使プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費(予算額):
13,126円(20,000円)

【目的】

野生動物保全教育:動物園とのコラボレーションによる学校教育の実践

【概要】

- 上野動物園とのコラボレーション事業「うへのトラ大使」を通して、
- ・動物園を活用した野生動物保全教育プログラムづくりと実践を発展させる。
 - ・台東区の小学校において教育活動を行う仕組みを確立する。

▶ 保全教育・普及・・・5、6、8頁参照

▶ チャリティー・イベントの開催・・・6、8頁参照

▶ 会報発行・・・年次報告書(2017年2月)、保護基金通信(2017年6月、10月)、メール・マガジン(5回)、ウェブサイト運営

[収支報告]

*トラ保護基金(JTEF2016年度)2016年11月1日～2017年10月31日

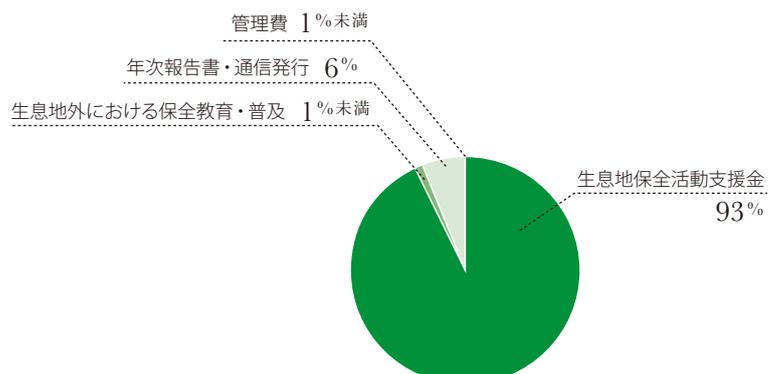
収入

	単位:円
正会員年会費	0
寄附金	2,334,514
助成金(Give One)	850
受取利息・為替差益	0
合計	2,335,364

支出

	単位:円
生息地保全活動支援金	2,200,283
生息地外における保全教育・普及	13,126
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	139,371
管理費(人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	5,187
合計	2,357,967

※共通の収入は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支状況を考慮して適正に配分しています。





【中央インド・トラ保全プロジェクト (マハラシュトラ州 ビダルバ地域)】

トラの森と共存する暮らし向上プロジェクト

▶ 燃料効率の良い改良型コンロの使用状況のモニタリングと交換

JTEFは2010年から毎日1世帯10kgも煮炊きのために森林伐採を行ってきた家庭に改良型コンロを設置してきましたが、森への影響が特に心配される優先度Ⅰおよび優先度Ⅱの村54のうち23村に設置できました(うちJTEFの支援による村は10)。設置された改良型コンロの使用状況は継続的にモニタリングされ、7つの村で壊れた改良型コンロを計114基、交換しました。



壊れた改良型コンロの交換作業

▶ 村の旅館にも改良型コンロを設置

コリドーの縁辺にある旅館では、旧式コンロから出る煙に対するお客さんや周辺住民からのクレームに頭を悩ませていました。そこで、(改良型コンロ設置を最初にJTEFが支援した)ソンドラ・ゴンディ村の村人の提案で、大型の改良型コンロが旅館に設置されました。これまで毎月300kgの薪を使っていたということなので、その量がどれだけ減るかが楽しみです。



▶ 村落コミュニティーの活動のけん引役、「自助グループ」による、森の恵みを大切に使った村の特産品作りへの支援

ナワゴン・ナグジラ・トラ保護区が3周年を迎え、ある非木材林産物の物産展では、自助グループが、非木材林産物の製品を販売するブースを3つ開設しました。

マフーア (Madhuca longifolia) の花 (ピクルス、ジャム、酒などに) とテンドウ (Diospyros melanoxylon) の柔らかい葉 (タバコの代用品) は、中央インドの森林でもっともよく利用される非木材林産物です。これらの森林生態系を損なわない採集方法について、普及啓発プログラムが実施され、18の自助グループから202名の女性が参加しました。



▶ コリドーにあらわれるトラやヒョウの目撃情報を集めるため、その見分け方などについてのチラシを作成・掲示



コリドー内で見つかったトラの足跡 (左)
トラとヒョウの識別用チラシ (中)
チラシを読む村人 (右)

▶ ウダンティ・トラ保護区の森林局・村人らがソンドラ・ゴンディ村を視察

ウダンティ・トラ保護区 (チャティスガル州) は、ナワゴン・ナグジラ・トラ保護区 (マハラシュトラ州) のずっと東に位置しますが、そこを管理する森林局員、保護区周辺の村長、村の女性たちが、いまや「トラの森と共存する暮らし向上プロジェクト」のモデルになったソンドラ・ゴンディ村を視察しました。村の暮らしが森へ与える悪影響を小さくするための取組みが進んでおり、村人の意識の高さに驚いていたそうです。今後、ナワゴン・ナグジラ・トラ保護区での取組みが、多くのトラ保護区 (周辺の村々) に広がっていくことが期待されます。





うえのトラ大使：上野動物園、上野観光連盟との共同事業による野生生物保全教育

2014年から始まった「うえのトラ大使」活動も第2期生になり、12月に第三回目のワークショップを行いました。この日は上野動物園にいるトラの仲間が暮らすスマトラ島のトラと他の生きものたちとのつながりを学びました。

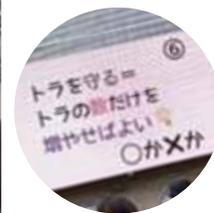


宿題としてトラの獲物となるスマトラ島に生きるサンバージカ、イノシシ、ブタオザル、ホエジカの食べるものを調べてきてもらったので、動物園でまずシカ、イノシシ、サルを観察したあと、室内でスマトラ島の森に生きものたちのカードを張り付けていきます。どれがトラの獲物に適しているのか、なぜか?など考えてから、トラのハンティングの様子をビデオで見ました。獲られる側のシカたちもそれぞれ身を守る術を身につけています。

このビデオやその後のゲームから、トラも獲物たちも生きるのは大変だーという実感をもって、次は今までのワークショップで学んだこと、大使たちの思いを入れたすごろく作りです。ルールも大使たちが作ります。そして、実際に大きなサイコロを転がしてやってみました。みんな、わあわあ言って大盛り上がり!



そしてこのすごろくは2月5日、上野動物園でお披露目されました。・最初降っていた小雨も上がり、大使たちがトラについて学んだことをスゴロクにしたリーフを会場で○×ゲーム参加者にプレゼント。なかなか難解な質問もありました。



上野動物園の来場者へ大使たちが作ったパンフレットの配布も配布前に来場者への声のかけ方、何を伝えるかなどを皆で考え、回を重ねていくにつれて恥ずかしがらずに上手に話せるようになってきました。

イベント報告

2016年度事業報告

2017.2/11

やまねこマラソン大会

西表島

今年も「マラソンは飛ばしても車はゆっくりね」のスローガンで、チームの皆さんがTシャツを着て、完走しました。



2017.4/15

イリオモテヤマネコの日 記念シンポジウム開催

西表島

ヤマネコの日記念シンポジウム「これからのヤマネコ保護と島の暮らし」開催。50名以上の参加をいただき、2018年にも登録される予定の世界自然遺産とオーバーユースについてパネルディスカッションを行いました。



2017.4/18,19

アースデイ東京2017

代々木公園

象牙国内市場閉鎖に向けた世界各国の動きなどのパネル展示を行いながら、子供向けのワークショップで、動物のマグネット作り。ボランティアも参加者も大勢で賑わいました。



2017.5/27

JTEFを支える チャリティーパーティー2017

「JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会」によりチャリティーパーティー開催。イチャリバズの楽しいライブで大盛り上がりでした。



2017.7/26,27

西表島教員研修会開催

西表島

西表島小中学校の先生方の研修会を竹富町教育委員会と共催で実施しました。午前中はフィールドワーク、午後は先生方が授業案を作成し発表をしてくださいました。



2017.7/29

世界トラの日

動物園のボランティアスタッフとJTEFがトラのクイズとプレゼントを配布しながら、3500頭台のトラを守ろう！というメッセージを多くの人々に。

2017.9/21

白浜小学校ヤマネコ授業

白浜小学校ヤマネコ授業でフン分析のお手伝いをしてきました。生徒の皆さんは「臭い〜！」と叫びながらも、真面目にフンをほぐしていました。冬のフンからはネズミ、鳥の足、夏のフンからは甲虫、カエルの骨、イネ科の草本などが出てきました。ライオンやイエネコもお腹の調子が悪い時は草を食べるよと詳しい生徒も。



2017.8/25~9/3

田中豊美チャリティー展覧会

JTEFの賛同者、動物生態画家の田中豊美画伯。50年に渡り愛情を絵に表しながらいつまでもトラが野生で生きていける事を祈って、チャリティー展覧会を初めてJTEFのオフィスで開催しました。



2017.9/23,24

ナマステ・インディア2017

いい天気で、多くの方からエールをいただきました！子供達と折紙のゾウを作りながら、楽しくイベントでインドの野生動物をお祝いました！



2017.10/9

ゾウとサイを守るグローバル マーチ東京

NPO法人アフリカゾウの涙主催で、上野公園に200人が集結。1時間かけて園内を一周してゾウやサイの保護を呼びかけました。参加者の中にはお子さんも多く、風船を手に持ち、歌を歌いながら明るく楽しい雰囲気のマーチとなりました。



2017.10/15,16

ディワリ・イン・ヨコハマ2017

Happy Diwali! 横浜の山下公園にてインドの光のお祭り。イベント中雨は降ったり止んだり、そして急に寒くなったから長袖Tシャツとパーカーが完売。インドにはカレーや Bollywood ダンスばかりでなく、素晴らしい野生の世界もあることをアピール。

2017.10/28,29

ヤマネコ祭2017

動物園にいるツシマヤマネコつながりでイリオモテヤマネコの現状を伝えました。

□ 中央インドのティペシュワール野生生物保護区で以下の活動を行います。

- トラに殺された人や家畜が多いため地域住民のトラやヒョウへの恨みや恐怖心は深くなってきているので、森林局にパトロールの強化を要請します。そして軌轢のある村と定例会議を行い、代表メンバーで軌轢対応チームを組織し訓練を行います
- 森林局やスタッフのための必要装備の支給・技術トレーニングを行います。
- 地域の若者のキャパシティ・ビルディング。今までお金のために密猟や密輸をしていた若者を、野生生物との軌轢対応のため、森林官と地域住民の間を橋渡しするスタッフとしてトレーニングします。
- 地域住民への環境教育。
- 森林火災や開発等のインフラ整備など緊急事態への対応支援。



□ 上野動物園・上野観光連盟とコラボで、「うへのトラ大使」(第2期生)を実施します。

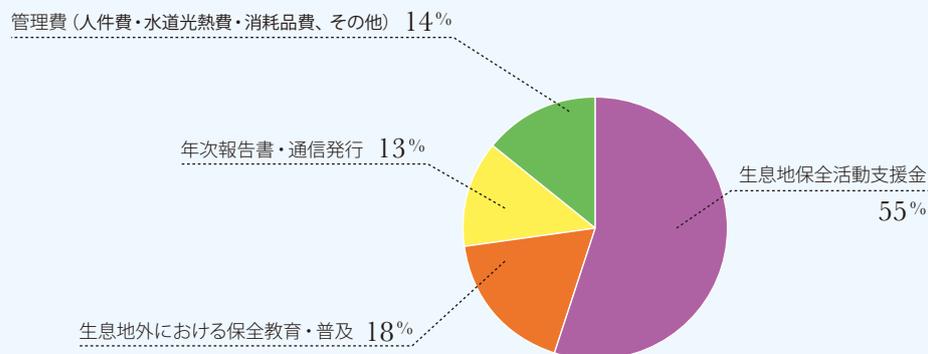
トラ保護基金 (JTEF2017年度予算) 2017年11月1日～2018年10月31日

予算：収入

	単位：円
正会員年会費	0
寄附金	3,210,000
助成金	0
合計	3,210,000

予算：支出

	単位：円
生息地保全活動支援金	1,750,000
生息地外における保全教育・普及	580,000
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	426,500
管理費(人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	453,500
合計	3,210,000



※共通の収入・支出は、それぞれの収支予算を考慮して適正に配分しています。

- November 2016** -----
- 11.6 石垣島やいびと大会参加 (石垣島)
 - 11.7 上原小学校 授業 (西表島)
 - 11.18 保全教育研究会 (東京・事務局)
 - 11.21 西表島白浜小 授業 (西表島)
 - 11.22 西表島 船浦中学 授業 (西表島)
- December** -----
- 12.8 トラ大使第3回ワークショップ (上野動物園)
- January 2017** -----
- 1.21 理事会、総会、交流会 (東京・事務局)
 - 1.27 保全教育研究会 (東京・事務局)
- February** -----
- 2.11 やまねこマラソン大会 (西表島)
- March** -----
- 3.22 2016年度 イリオモテヤマネコ保護増殖事業分科会 (那覇市)
- April** -----
- 4.1 しらうめ春祭り (梅が丘 白梅作業所)
 - 4.15 シンポジウム「これからのヤマネコ保護と島のくらし」(西表島)

- 4.22,23 アースデイ東京2017 (東京・代々木公園)
 - 4.23 八重山郷友会連合会 (王子「北とびあ」)
 - 4.27 EIA 来日、記者会見開催 (東京・事務局)
 - 4.28 EIA とともに外務省・経産省・環境省と国内象牙市場閉鎖について意見交換 (東京)
- May** -----
- 5.18 参議院環境委員会「種の保存法改正法案」審議参考人招致 (東京・参議院)
 - 5.27 JTEF の活動を支えるチャリティー・パーティー (東京)
 - 5.28 竹富島郷友会でヤマネコ保護についてお話 (王子「北とびあ」)
- June** -----
- 6.19 理事会 (東京・事務局)
 - 6.25 トラ大使リーフレット配布 (上野動物園)
- July** -----
- 7.26,27 西表教師研修会 (西表島)
 - 7.29 世界トラの日 ブース出展 (上野動物園)
- August** -----
- 8.12 世界ゾウの日 ブース出展 (上野動物園)

- 8.15 トラ大使リーフレット配布 (上野動物園)
 - 8.24 世界自然遺産上原地区住民説明会に参加 (西表島)
 - 8.25~9.3 田中豊美さんトラ絵画展 (東京・事務局)
- September** -----
- 9.10 東京西表島郷友会 (東京・赤羽会館)
 - 9.11,20,21 「西表島の適正利用とエコツーリズム推進体制に向けた検討会」と区域別作業部会に参加 (西表島)
 - 9.17 しかあざ会 (東京・赤羽会館)
 - 9.23,24 ナマステ・インディア2017 (東京・代々木公園)
 - 9.25 IUCN に対して「イリオモテヤマネコの保全からみた西表島の推薦に対する意見」(英文 35頁)を提出
- October** -----
- 10.9 ゾウとサイを守るグローバルマーチに参加 (上野公園)
 - 10.14,15 ディワリ・イン・ヨコハマ2017 (横浜 山下公園)
 - 10.19 IUCN 現地調査における地域との意見交換会に参加 (西表島)
 - 10.22 トラ大使リーフレット配布 (上野動物園)
 - 10.24 理事会 (東京・事務局)
 - 10.28,29 ヤマネコ祭2017 (井の頭自然文化園(動物園))

Media

-JTEF やそのパートナーの活動/コメントが掲載されました-

- 2017年1月18日_東京新聞:象牙取扱業 登録制に 悪質業者排除へ監視強化
- 3月1日_朝日新聞:象牙売買、違反で懲役刑も 業者、登録制に法改正案を閣議決定
- 3月1日_時事通信:会社員ら不起訴処分=無登録象牙をネット売買—東京地検
- 3月1日_日本経済新聞:象牙売買の男性ら不起訴 東京地検
- 3月27日_八重山日報:スピード違反減少 島民、ヤマネコ意識か
- 4月19日_八重山毎日新聞:希少種との共存探る イリオモテヤマネコの日 記念シンポ 住民や研究者ら50人参加
- 4月28日_朝日新聞:象牙市場の閉鎖を求める 国際NGOが声明
- 5月7日_朝日新聞:もっと教えて!ドラえもん/ヤマネコ日本に2種類いるね 年々数が減少 保護活動が進む
- 5月14日_琉球新報:イリオモテヤマネコシンポ「緩衝地も重要生息地」竹富保護や共存策議論
- 5月20日_朝日新聞:@ケニア 象牙の密猟と戦う人々
- 5月22日_しんぶん赤旗:象牙取引の規制が必要 参考人が指摘 日本に道義的な責任 武田議員
- 7月6日_共同通信:楽天市場、象牙取引を禁止 環境団体「影響大」と歓迎
- 7月30日_琉球新報:安定した環境保って ヤマネコ保護講演会
- 7月31日_八重山毎日新聞:大原中の同窓会設立 本島在住卒業生で組織
- 8月3日_朝日新聞:楽天、象牙のネット取引を全面禁止へ 8月中にも
- 9月2日_朝日新聞:イオン、象牙製品の取り扱い全廃へ 20年3月までに
- 9月6日_共同通信:イオンモール象牙禁止へ 民間が選好、政府は容認 政府の登録推進に批判も
- 9月30日_八重山日報:見学ツアー規制 訴え ヤマネコの人馴れ懸念 IUCN に意見書
- 10月8日_八重山日報:トラ・ゾウ保護基金 環境省に要望書 IUCN 視察で
- 10月8日_八重山毎日新聞:IUCN との意見交換 やまねこパトロールが要望書
- 10月14日_沖縄タイムス:意見交換会へ住民参加要望 NPO 法人、環境省に
- 10月14日_琉球新報:自然遺産推薦地拡大求め意見書 トラ・ゾウ保護基金
- 10月20日_沖縄タイムス:登録で観光客急増懸念 世界自然遺産調査 西表住民 専門家と議論
- 10月21日_八重山日報:観光規制の対策急務 町、3月に条例上程へ
- 10月22日_琉球新報:観光施設で歓迎と懸念 西表 世界遺産登録で検討 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部ややまねこパトロールが情報公開請求で入手した検討会資料によると、島西部・浦内川河口にヤマネコ観察シェルター、ミュージアムショップなどを備えた「西表フィールドミュージアム(仮称)」を建設するなど、複数の施設整備が検討されている。拠点整備構想について、西表島でホテルを経営する竹富町観光協会の上角直之会長は「本物の自然をきちんと理解してもらいたいので、整備には大いに賛成したい」と歓迎する。一方、やまねこパトロールの高山雄介事務局長は、整備予定地がイリオモテヤマネコの主要な生息地だと指摘し「施設整備により大勢の観光客が出入りする事で、ヤマネコの生育環境の攪乱につながる恐れがある」と懸念を示す。住民に構想が公表されていないとして「拠点整備は観光客の流れを形づくるもので、住民生活にも影響する。議論の内容を広く公開してほしい」と求めた。
- 11月4日_朝日新聞:今さら聞けない+ (PLUS) /世界自然遺産 貴重な地形や動植物の宝庫
- 12月4日_東京新聞/中日新聞:象牙規制「日本に抜け穴」ワシントン条約委で批判 登録制度 違法取引防げず 先月、「日本の国内象牙市場を閉鎖すべき、これだけの理由」と題した250頁の報告書を発表した坂元雅行弁護士(NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」事務局長)は、登録キャンペーンについて「象牙業者の在庫を測そうというもくろみだ」と酷評。象牙の登録機関が、申請された「象牙」の現物検査を行わず、追跡調査に必要な個体識別やマーキングもされない現状に恐れ、違法な象牙を不法な手段によって偽造登録し、合法市場に流入させるロンダリング(洗浄)を助長している」との見方を示した。
- 12月5日_朝日新聞:eco活プラス/動物の事故死 防ぐには 抜け道整備 標識に注意し運転
- 12月23日_朝日新聞:象牙密輸出、日本で横行 中国向け、現地は3~4倍の高値



イベントカレンダー

4月7日(土) 10:00-13:00
白梅福祉作業所さくらまつり
(世田谷区松原6丁目43番17号 ソウ福祉ビル)

4月21日(土)22日(日)
アースデイ東京2018
(東京・代々木公園)

4月15日(日)
「第3回イリオモテヤマネコの日」記念シンポジウム
(西表島・会場未定)

6月2日(土) 18:00-20:00
JTEF をささえるチャリティー・パーティー 2018
(東京・ビヤステーション恵比寿)

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄付のお支払方法

ゆうちょ銀行
 口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

ホームページからクレジットカードでもご寄付いただけます。
<http://www.jtef.jp>

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2017年1月1日以降2017年12月31日の間にいただいた年間サポート費、随時寄付の2,000円を超える部分につきましては、平成29年度の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。

確定申告の受付は2018年(平成30年)3月15日(木)まで。お忘れなく!